富士養鱒場だより

第226号
平成27年5月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場　〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2　TEL:0544-52-0311
FAX:0544-52-0312　E-mail　suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp　URL http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji

富士宮市内でのニジマスの利用状況

平成 24～26 年度に、富士宮市内の家庭へのニジマス PR、消費者ニーズの把握を主目的とした普及重点課題「ニジマス PR 大使創出作戦」に取り組みました。一部の成果は本誌 217 号でも紹介しましたが、今回は富士宮市内のニジマスの利用状況に関するデータを中心に紹介します。

1　SM での購入状況

富士宮市内のスーパーマーケット（SM）におけるニジマスとサーモントラウトの購入状況を表 1 に示しました。ニジマスの購入率が 9～10%であったのに対し、サーモントラウトのそれは 45%と高く、しかも複数回購入する人の割合が多いことも分かりました。

サーモントラウトとニジマスの SM における購入率の関係を図 1 に示しました。サーモントラウトの購入者の 16.3%がニジマスを購入しており、サーモントラウトの非購入者の 5.5%を大きく上回りました。このことは、サーモントラウトとニジマスの購入に正の相関があることを示しています。

表 1　富士宮市内のスーパーマーケットにおけるニジマスとサーモントラウトの購入状況

商品名	ニジマス			サーモントラウト
調査年	H24	H25	H26	H26
複数回購入	5%	4%	6%	38%
1回購入	4%	5%	4%	7%
購入しない	91%	91%	90%	55%

2　地区別のニジマス利用状況

ニジマスを利用した世帯割合を小学校別にとりまとめ図 2 に示しました。ニジマスを食した世帯割合は 8.9%（富士根南小）～30.0%（白糸小）の範囲にあり、北西に位置する小学校ほど高い傾向にありました。SM での購入率は、大宮小、黒田小、大富士小、上野小のそれぞれで 12.6～14.5%と高く、大手量販店での小型ニジマス（レギュラー）の販売が購入率の高さに貢献しているものと推察されました。

一方、レジャーや直販等でのニジマスの利用は、養鱒場が近隣にある白糸小、上野小、富丘小のそれぞれで 14.0～30.0%と高く、これらの地区ではレギュラー魚のほかに、大型魚を刺身で食べるとの意見が多く聞かれました。

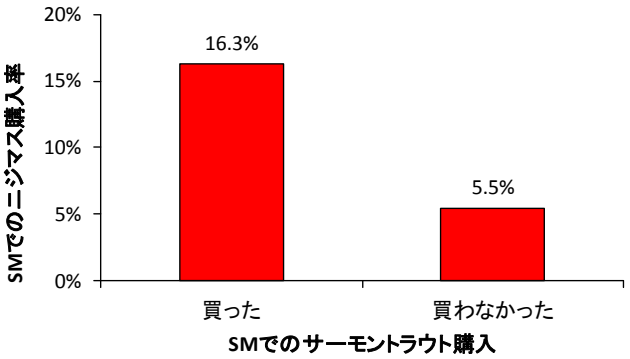


図 1　SM におけるサーモントラウトとニジマスの購入率の関係状況

まとめ

ニジマスが市の魚に認定されている富士宮市内においても、ニジマスよりもサーモントラウトの購入率が高く、ニジマスの利用状況は地区により大きく異なることが分かりました。これらの事実は、今後のニジマス販促を考える良いヒントになります。

例えば、大手量販店（SM）がニジマスレギュラーを販売する富士宮駅周辺地区では、サーモントラウトの販促も兼ねた魚食普及を図ることでニジマスの購入率を高められる可能性があると考えられました。また、養殖場が位置する地区では直売を進めることが重要であると考えられました。

なお、自由意見欄に書かれていたニジマスに対するキーワード上位 5 位は、「臭う」「レジャー」「料理法が分からない」「美味しい」「高い」でした。どちらかというとネガティブな意見が目立ち、未だに「臭う」との意見が多いことに普及の足りなさを痛感させられました。反面、地元の産品なので食べたいという意見も多く、簡単で美味しい調理法を紹介しながら、口にする機会を少しでも増やすことが重要と思われました。生産者、富士宮市、大手量販店、地元の料理人らと協力しながら、そのような機会を増やしていきたいと思います。　　（鈴木邦弘）

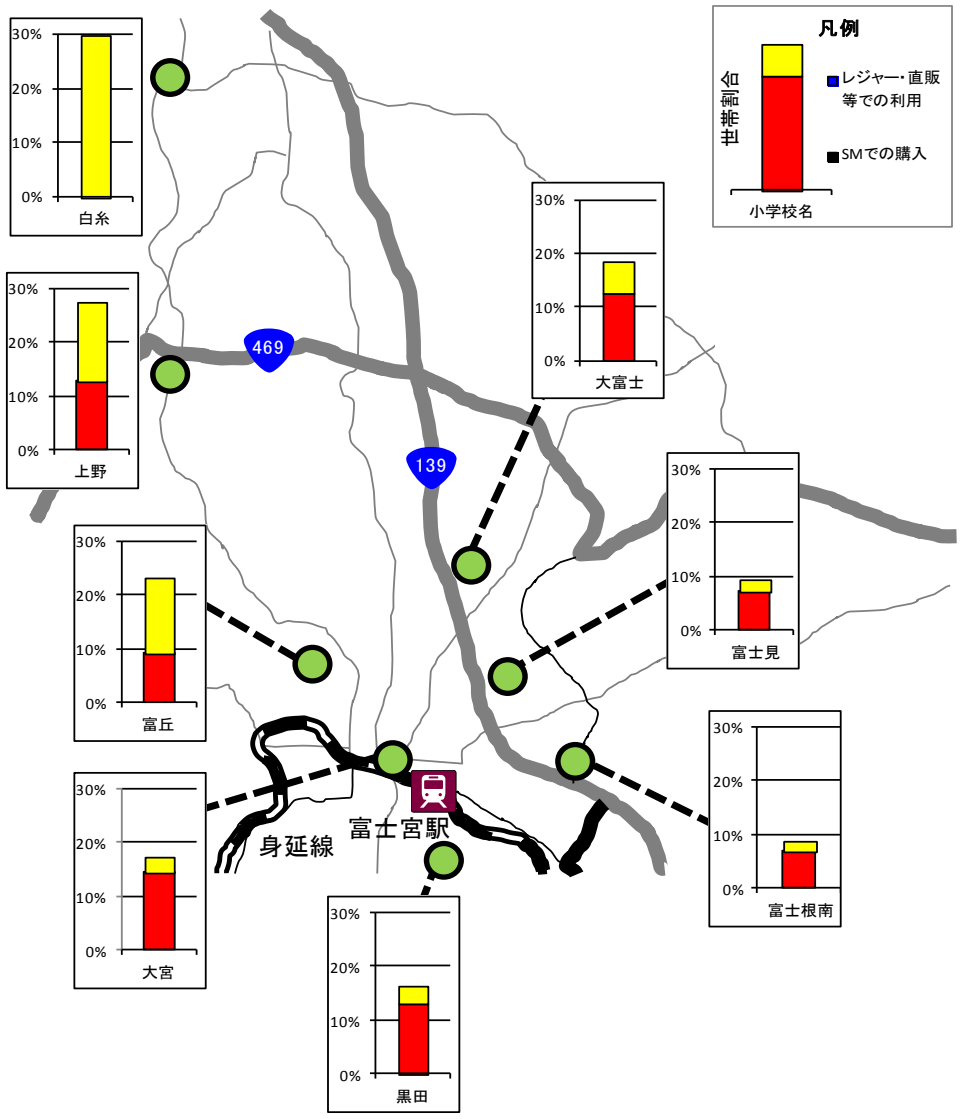


図 2
ニジマスを利用した世帯割合（小学校別）

平成 26 年のサケ科魚類の生産と魚病被害の状況

平成 26 年の静岡県におけるサケ科魚類の生産状況と魚病被害状況がまとまりましたので報告します。

方　法

県内でサケ科魚類の養殖業を営む経営体を対象にアンケート票を配付し、魚種ごとの生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量と被害額を調査しました。本調査の対象期間は平成 26 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間です。

結　果

1　アンケート回答状況

魚種ごとの回答状況は表 1 のとおりです。

平成 26 年の経営体数はニジマスで 2 軒減少しました。実経営体数は 34 軒でした。

表 1　アンケート回答状況

魚　種	経営体数	回収数	回収率(%)	経営体数(H25)
ニジマス	16	16	100	18
ギンザケ	2	2	100	3
アマゴ	24	24	100	22
イワナ	7	7	100	7
その他※1	5	5	100	6
計	54(34)※2	54	100	56(36)

※1 その他にはヤマメ、ブラウントラウト、カワマス、サクラマスが含まれる
※2 数字は延べ経営体数、括弧内は実経営体数

2　魚種別生産状況

平成 22 年から 26 年までの 5 か年の生産量の推移は表 2、生産金額の推移は表 3、販売単価の推移は表 4 のとおりです。

平成 26 年の魚種別生産量の合計は 1,282t で前年に比べ 300t 減少しました。生産金額も前年に比べ 140 百万円減少しました。

(1)ニジマス

平成 26 年のニジマスの生産量は 1,118t と前年に比べ 332t 減少、生産金額も 630 百万円と前年に比べ 172 百万円減少しました。しかし、販売単価（生産金額÷生産量）は 563 円/kg と前年から 10 円/kg 上昇しました。

(2)ギンザケ・アマゴ・イワナ

平成 26 年のギンザケ、アマゴ、イワナの生産量はそれぞれ 11t、37t、95t、生産金額は 29 百万円、51 百万円、87 百万円でした。前年に比べ、ギンザケの生産量は減少しましたが、アマゴ、イワナでは増加し、生産額では 3 種とも増加しました。

表 2　魚種別・年別生産量(t)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合　計
H22	1,471	41	37	68	21	1,638
H23	1,508	46	57	48	5	1,663
H24	1,279	38	39	85	8	1,450
H25	1,450	17	32	73	10	1,582
H26	1,118	11	37	95	21	1,282

表 3　魚種別・年別生産金額（百万円）

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合　計
H22	687	44	45	51	11	838
H23	666	45	78	45	6	840
H24	622	48	54	70	7	801
H25	802	28	50	67	9	956
H26	630	29	51	87	19	816

表 4　魚種別・年別販売単価（円/kg）

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合　計
H22	467	1,071	1,231	750	506	511
H23	442	986	1,370	931	1,106	505
H24	486	1,247	1,378	824	931	552
H25	553	1,687	1,565	913	858	604
H26	563	2,724	1,376	919	899	636

3　魚種別魚病被害状況

平成 22 年から 26 年までの 5 か年の魚病被害量は表 5、被害金額は表 6、平成 25 年と 26 年の魚種別・疾病別の被害状況は表 7、表 8 のとおりです。

平成 26 年の総被害量は 109.3t、総被害金額は 80,285 千円で、前年に比べ総被害量は 22.6t、総被害金額は 11,869 千円増加しました。生産量に対する被害量の割合は 8.7%、生産金額に対する被害金額の割合は 10.1%でした。

(1)ニジマス

平成 26 年のニジマスの被害量は 105.2t、被害金額は 72,295 千円で、前年に比べ被害量は 23.7t、被害金額は 9,137 千円増加しました。疾

病別ではミズカビ病とＩＨＮの被害量が多く、次いで、レンサ球菌症、ビブリオ病の被害量が多くありました。特にＩＨＮは前年の２倍に増加し、そのほとんどが稚魚期を過ぎた 20g 以上での被害でした。

(2)ギンザケ・アマゴ・イワナ

平成 26 年のギンザケ、アマゴ、イワナの被害量は、ギンザケでは被害が無く、アマゴ、イワナはそれぞれ 3.8t、0.3t、被害金額は 7,500 千円、490 千円でした。疾病別では、アマゴではせっそう病と細菌性鰓病、イワナではせっそう病の被害が見られました。

（佐藤孝幸）

表 5　魚病被害量

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合　計
H22	107	4	2	3	117
	7.3	9.9	6.3	4.3	7.2
H23	92	1	2	0	96
	6.1	2.4	4.2	0.4	5.8
H24	77	0	2	2	82
	6.0	0.0	6.0	2.8	5.7
H25	82	0	3	2	87
	5.6	1.2	10.5	2.1	5.5
H26	105	0	4	1	110
	9.4	0.0	10.1	0.7	8.7

上段：被害量（t）
下段：生産量に対する割合（%）

表 6　魚病被害金額

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合　計
H22	75,211	2,625	2,245	3,720	83,801
	11.0	6.0	5.0	7.3	10.1
H23	57,756	850	3,228	895	62,729
	8.7	1.9	4.1	2.0	7.5
H24	61,492	0	3,402	2,427	67,321
	9.9	0.0	6.3	3.5	8.5
H25	63,158	100	3,731	1,427	68,416
	7.9	0.4	7.4	2.1	7.2
H26	72,295	0	7,500	490	80,285
	11.5	0.0	14.6	0.6	10.1

上段：被害金額（千円）
下段：生産金額に対する割合（%）

表 7　魚種別・疾病別被害量(kg)

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合　計
ＩＰＮ	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
ＩＨＮ	65,060	0	0	0	65,060
	31,063	0	0	0	31,063
ＯＭＶＤ (ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ症)	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
ＥＩＢＳ	0	0	0	0	0
	0	200	0	0	200
ビブリオ病	1,500	0	0	0	1,500
	5,271	0	0	0	5,271
せっそう病	100	0	2,100	300	2,500
	0	0	1,274	1,400	2,674
冷水病	1,810	0	50	0	1,860
	1,543	0	23	0	1,566
レンサ球菌症	6,200	0	0	0	6,200
	7,714	0	0	0	7,714
細菌性鰓病	1,000	0	1,500	0	2,500
	1,221	0	116	0	1,337
白点病	250	0	0	0	250
	0	0	0	0	0
ｲｸﾁｵﾎﾇｽ症	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
ミズカビ病	27,000	0	25	0	27,025
	21,857	0	1,760	140	23,757
その他	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
不明	2,300	0	100	0	2,400
	12,857	0	217	0	13,074
ガス病	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
合　計	105,220	0	3,775	300	109,295
	81,527	200	3,390	1,540	86,657

上段：H26年
下段：H25年

表 8　魚種別・疾病別被害金額(千円)

	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合　計
ＩＰＮ	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
ＩＨＮ	40,945	0	0	0	40,945
	27,371	0	0	0	27,371
ＯＭＶＤ (ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ症)	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
ＥＩＢＳ	0	0	0	0	0
	0	100	0	0	100
ビブリオ病	1,400	0	0	0	1,400
	3,819	0	0	0	3,819
せっそう病	100	0	4,200	490	4,790
	0	0	1,899	1,295	3,194
冷水病	3,450	0	50	0	3,500
	2,507	0	37	0	2,544
レンサ球菌症	3,500	0	0	0	3,500
	4,339	0	0	0	4,339
細菌性鰓病	650	0	3,000	0	3,650
	746	0	162	0	908
白点病	500	0	0	0	500
	0	0	0	0	0
ｲｸﾁｵﾎﾇｽ症	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
ミズカビ病	18,900	0	50	0	18,950
	16,277	0	1,285	132	17,694
その他	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
不明	2,850	0	200	0	3,050
	8,100	0	347	0	8,447
ガス病	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
合　計	72,295	0	7,500	490	80,285
	63,158	100	3,731	1,427	68,416

上段：H26年
下段：H25年

トピックス

第 26 回にじます祭が開催されました

平成 27 年 3 月 1 日に、富士山本宮浅間大社内の神田川ふれあい広場で、第 26 回にじます祭が開催されました。

地元児童による躍り、ニジマス稚魚の放流、巨大な湧幻鱒の重量あてクイズ（5,350g）、ニジマス関連商品の物販などのほか、地元レストランのシェフによる料理教室も開かれました。さらに、富士山ジビフェスも同時開催され、ジビエ料理が無料で振舞われました。

昨年に続き、冷たい雨が降る中での開催で客足が心配されましたが、それでも市内外から約 1,000 名の来場者がありました。来年は青空の下、もっと多くの人に富士山の恵みを味わってもらいたいです。　　（鈴木邦弘）

熟練の技で塩焼きを焼く出品者

興津川漁協の総代会でアユ釣りの経済波及効果について講演を行いました

平成 27 年 3 月 8 日に、興津川漁協総代会において、「興津川におけるアユ釣りの実態と地域経済波及効果の推定」と題する講演を組合員代表（総代）130 名を対象に行いました。

内水面漁業振興法が施行され、水産業の多面的機能がクローズアップされる現在です。アユ釣りの現状や課題を明らかにし、遊漁者ニーズに応えること、地域経済への貢献度を可視化することに大きな意味があることを、具体的なデータを示しながら講演させて頂きました。

本講演により、興津川のアユ釣りの将来像を描く土台を提供できたと思うので、今後の進展に期待したいと思います。　　（鈴木邦弘）

講演を聴講する組合員

富士川でサツキマスの放流会が行われました

平成 27 年 3 月 22 日に、芝川観光漁協は、富士川河川敷でサツキマス（降海型アマゴ）の放流会を初開催しました。富士川に釣り人の賑わいを取り戻そうとする取り組みの一環であり、一般の釣り人の協力を得て 400g のサツキマス 223 尾の脂ヒレ切除を行いました。今後、釣り

人による再捕を通じて、放流結果の検証が行われる予定です。なお、サツキマスの放流は、本来であれば秋以前に行うのが適当と思われるので、今年度は放流時期の調整も行います。

このほかに、芝川漁協では、富士川でのアユの遡上実態調査や濁りの観測を開始予定であるため、それらの活動も支援していきます。

（鈴木邦弘）

サツキマスへの標識作業を行う関係者

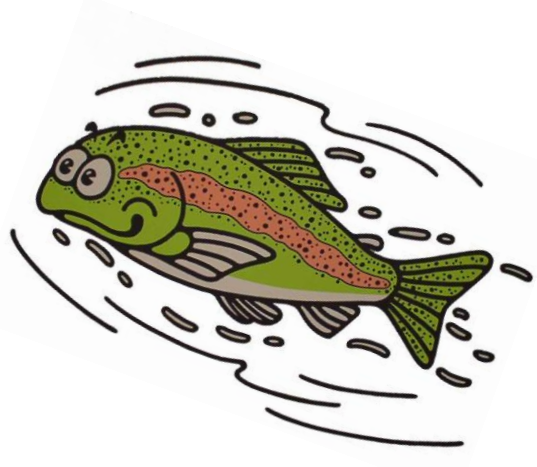
人事異動

（転出）	上席研究員	松山　創	→	水産資源課	主	査
（転入）	上席研究員	鈴木基生	←	研究調整課	主	査

転入者自己紹介

４月から富士養鱒場に転入しました鈴木基生（スズキモトオ）です。富士養鱒場には、これまで平成３年度～７年度、19年度～22年度に勤務していましたので、今回で３度目の赴任となります。

これまでの２回の在勤中は、普及指導員として活動して参りましたが、今回は研究担当となりました。次ページの業務紹介にもありますが、新成長戦略研究「大型ニジマスの低コスト生産技術の開発と販売戦略の推進」のほか、様々な研究課題に取り組み、県内の水産業の発展に貢献していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



富士養鱒場のマスコットキャラクター
「マスオ君」

業務紹介

人事異動に伴い、4月より下記の体制で業務に取り組んでいます。大型ニジマスを低コストで生産する技術の開発を目指す新成長戦略研究をはじめ、河川でのウナギの生態研究などで得られた研究成果は、迅速に情報発信すると共に、ニジマスの消費拡大のための6次産業化や魚病対策などを引き続き実施し、養鱒業の振興に寄与できればと考えております。（平井一行）

担当業務	主任	副主任
1 富士養鱒場業務の総括に関すること	平井	鈴木(基)
2 予算・庶務及び観覧業務に関すること	鈴木(大)	鈴木(基)
3 試験研究の企画調整に関すること	鈴木(基)	木南
4 新成長戦略研究(ニジマス)に関すること	鈴木(基)	鈴木(邦)・木南
5 冷水性淡水魚類養殖研究に関すること		
(1) ニジマス低魚粉飼料開発に関すること	鈴木(基)	木南
(2) ニジマスの品種改良に関すること	木南	鈴木(基)・渡辺
(3) その他の冷水性淡水魚類養殖に関すること	鈴木(基)	鈴木(邦)・渡辺・植松
6 内水面漁業・内水面環境研究に関すること		
(1) 新成長戦略研究(ウナギ)に関すること	鈴木(基)	木南
(2) アユ漁場の効率的利用研究に関すること	木南	鈴木(基)
7 全国協議会に関すること	鈴木(基)	木南
8 普及指導の企画・推進に関すること	鈴木(邦)	佐藤
9 担い手の育成と確保に関すること		
(1) 水産技術・経営の改善に関すること	鈴木(邦)	佐藤
(2) 後継者育成に関すること	鈴木(邦)	佐藤
(3) 沿岸漁業改善資金に関すること	佐藤	鈴木(邦)
10 地域水産業の振興に関すること		
(1) 養鱒業に関すること	鈴木(邦)	佐藤
(2) 海産魚類養殖業に関すること	佐藤	鈴木(邦)
(3) 魚病対策に関すること	佐藤	鈴木(邦)
(4) 生産業務指導に関すること	鈴木(邦)	佐藤
(5) 内水面漁業に関すること	鈴木(邦)	佐藤
(6) 6次産業化に関すること	鈴木(邦)	佐藤
11 水産技術情報の発信に関すること		
(1) ホームページに関すること	佐藤	鈴木(邦)
(2) 広報誌に関すること	鈴木(邦)	佐藤
(3) 講習会・研修会の開催に関すること	鈴木(邦)	佐藤
(4) 展示室の管理に関すること	佐藤	植松
(5) その他の技術広報に関すること	佐藤	鈴木(邦)
12 その他普及事項に関すること	鈴木(邦)	佐藤
13 その他の事項		
(1) 庁舎の保守管理に関すること	鈴木(大)	鈴木(基)・佐藤
(2) 研究棟の保守管理に関すること	鈴木(基)	木南
(3) 場内の環境整備・補修に関すること	鈴木(大)	全員
(4) 車両の保守管理に関すること	鈴木(大)	木南
(5) 機械類の保守管理に関すること	鈴木(基)	渡辺
(6) 図書・資料整理に関すること	木南	佐藤
(7) 試験地の管理に関すること	鈴木(基)	植松・佐藤
(8) 生物工学水槽実験室の保守管理に関すること	木南	渡辺
(9) 免疫工学水槽実験室の保守管理に関すること	木南	渡辺
(10) 排水処理施設の管理に関すること	佐藤	植松
(11) テマセク工業技術専門校との連携に関すること	木南	平井
(12) その他の事項に関すること	鈴木(大)	鈴木(基)

富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量(降水日数) ：mm（日）		湧水量 ：万ｔ/日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
2	69 (11)	90 (7)	3.64	2.88
3	147 (13)	206 (9)	3.63	3.27
4	243 (11)	233 (9)	4.09	4.36

＊ 前年以前の 20 年間平均値

日 誌

2 月	3 月	4 月
2 日　養鱒協第 2 回運営委員会(東京)	1 日　にじます祭	9 日　普及月例会（焼津）
3 日　狩野川水産多面的ヒア同行	2 日　ウナギ耳石解析（千葉）	10 日　漁業士会役員会（静岡）
4 日　食ビジネス交流会（静岡）	5 日　一般研究評価部会（焼津）	13 日　６次産業化推進会議（県庁）
5 日　イオン打ち合わせ	6 日　普及課題成果報告会（焼津）	14 日　紅富士生産部会
6 日　漁業士会総会（伊東）	8 日　興津川漁協総代会研修会(静岡)	15 日　鰭カットアユの興津川放流
10 日　湧幻鱒商談（大阪）	11 日　水研中村氏来場	19 日　ウナギシンポジウム（浜松）
12 日　第 1 回作戦会議	12 日　魚病対策委員会（静岡）	20 日　温水センターヒラメ VNN 検査
13 日　にじます祭実行委員会	13 日　普及重点課題協議会（焼津）	20 日　コンプライアンス担当者研修
16 日　農林漁業奨励賞授与式（県庁）	16 日　消費者モニター評価会（静岡）	21 日　新成長戦略研究打合せ（焼津）
16 日　新成長戦略研究評価会（県庁）	17 日　食の仕事人との交流会（市内）	21 日　経営改善計画協議会（静岡）
17 日　技連（当場）	19 日　福井県内漁連研修会（福井）	22 日　水産事業概要説明会（県庁）
17 日　鰻水産庁事業報告会（東京）	22 日　サツキマス放流会（富士）	22 日　マーケ課事業説明会（静岡）
17-18 日　アユ資源研究部会（東京）	24 日　富士養鱒漁協資格審査会	23 日　新大井川漁協アユ放流指導
18 日　全海水協会シンポ（沼津）	25 日　ウナギ資源調査（伊東）	24 日　ウナギ研究打合せ（浜松）
19 日　普及月例会（焼津）	28 日　水産学会口頭発表（東京）	24 日　ニジマス研究打合せ（東京）
21-22 日　農芸品フェア（沼津）	31 日　紅富士てまり寿司打合せ	27-28 日　ウナギ資源調査（伊東）
25 日　紅富士協議会第 2 回検討会		30 日　ニジマス新成長研究打合せ
26 日　一般研究評価部会（焼津）		
27 日　ウナギ資源調査（伊東）		
＜視察見学対応＞		＜視察見学対応＞
23 日　市富士山ツアー対応（40 人）		27 日　ネブラスカ州立大学視察(4 人)